

棚田通信

NO7 2008.10

恵那市坂折棚田保存会

なごみの里だより

第14回全国棚田(千枚田)サミットに参加

10月16日～18日長崎県雲仙市において第14回全国棚田サミットが開催されました。恵那市で開催されたのが平成15年(第9回)、その後佐賀、愛知、宮崎、栃木で開催されて来ました。今回は長崎市の大中尾棚田と雲仙市の千々石(ちぢわ)棚田の共同開催となりました。

大中尾棚田はJR長崎駅から車で約50分、外海地区に位置し、面積約8ha、田の枚数450枚、起源は戦国時代から江戸時代とされ、4.2km離れた神浦ダムから用水を取り入れ二百数十年前から米作りが行われてきたと言われていています。現在では大中尾棚田保存組合が組織され、自然景観を壊すことなく次世代に引き継ぐ活動が行



われています。ここ大中尾棚田を訪れたのは16日の夕方でした。イベントの一つとして大中尾棚田の火祭りが行われました。田の畦に2m間隔に灯油を入れた3,600個の缶を置き、夕方が沈むと同時に点火され、夕暮れの海と棚田にともされる明かりの見事な景観の出現で一同感動しました。坂折棚田でも実施したいと思いました。

翌日は雲仙市に移動、JR諫早駅からバスで約40分、千々石棚田が見えてきました。



千々石という字のごとく、石積みの美しい棚田でした。ここでは地元農業者を中心に「岳棚田プロジェクト21」設立し、先人の知恵と技術により形成された棚田の保全や地域の活性化を目的に活動しています。

坂折棚田と比較すると男性的な石積みでした。千々石町の棚田の中に「清水棚田」があり、日本棚田百選に長崎県の「まちづくり景観遺産」に下崎棚田と集落が認定されていました。

午後からは分科会討議が行われました。分科会は①棚田と環境・教育、②一般市民参加による棚田保存、③地域づくりと棚田の継承、④棚田地域での生産と販売戦略⑤百姓と共に語ろう日本の農業、と5つの分科会にわかれ、私たちは第1分科会（棚田と環境・教育）に参加しました。そこで大変参考になったのは「鬼木棚田保存会」の“棚田は21世紀の社交場”と題した事例報告でした。骨子は種々のイベント通じて都市住民との交流を行い、あたかも社交場となっている。例えば大豆（枝豆）を1mのヒモで縛れるだけ収穫する、里芋の里親制度、案山子コンクール（時代を風刺したユニークな案山子を展示）など訪問者を楽しませる事業です。保存会としてもすぐに実行できることだと思いました。3日間を通じて天候に恵まれ、大変楽しく参考になることが多いサミットでした。余談ですが、坂折棚田保存会も全国から注目されており、各種取材を受け、翌日の長崎新聞に談話が掲載されました。

第2回坂折棚田フォトコンテスト審査結果。

今回のフォトコンテストは、棚田の四季がテーマでした。

出品者52人、出品作品139点で半分以上は市外の方々からの応募があり、遠くは兵庫県宝塚市からの応募もあり、本当に遠方から棚田を見に来ていただいていることに感動しています。審査は会長、坂折棚田の風景を取り続けている写真家の伊藤さん、名誉会員の小板先生などを中心に行ないました。それぞれに優秀な作品ばかりで審査員を悩ませましたが、厳選なる審査の結果、最優秀賞には八百津町の吉田弘幸さんの「夕月に育ぐくまれ」が選ばれました。10月19日の坂折棚田収穫祭に表彰式が行われます。

【表彰者一覧表】

最優秀賞

「夕月に育ぐくまれ」

吉田弘幸（八百津町）

優秀賞

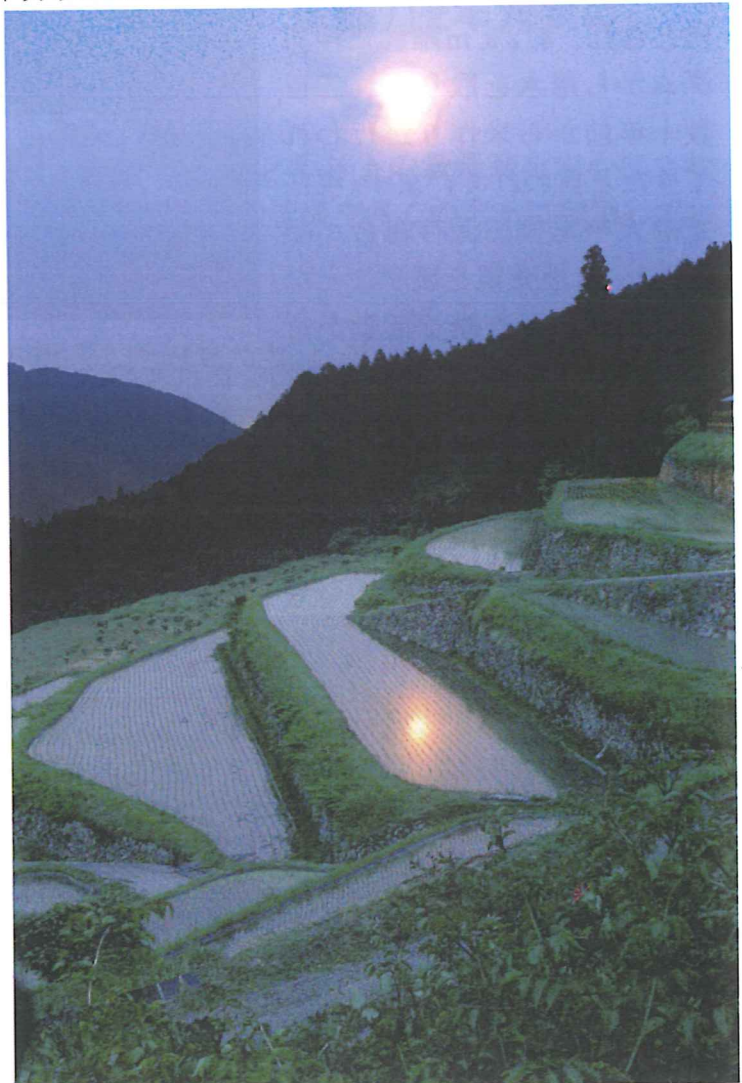
「稔る頃」

山口 道弘（各務原市）

「秋の収穫」

青木 孝義（中津川市）

「豊穰」 茅野 久（豊明市）



【最優秀作品 「夕月に育ぐくまれ」】

佳作

「収穫の秋」 水野 正義 (名古屋市)

「田植の頃」 高垣 孝史 (八百津町)

「水張りの頃」 市岡 英也 (八百津町)

審査員特別賞

「体験学習」 足立 操 (瑞浪市)、

「初雪の棚田」 林 護 (恵那市)、

「棚田初夏」 岩崎 勲 (多治見市)、

「田植間近」 深谷 富子 (日進市)、

「田植の頃」 山田 理子 (名古屋市)、

「夜明け前」 安江 惇訓 (恵那市)

「収穫を見守る田の神さま」 西村 誠 (各務原市)

「棚田に彩り芙蓉の花」 古川 秀清 (可児市)、

「都会子の楽しい田植」 石原 美千子 (八百津町)、

「本日は晴天なり」 高橋 斉 (甚目寺町)、

ふるさと納税で坂折棚田の保全を

今年からふるさと納税制度ができました。ふるさと納税とは地方（ふるさと）に対して貢献や応援をしたという納税者の思いを実現するため、応援したい自治体への寄付を通じて、その寄付金額の5千円（適用



ふるさとえな応援寄付金制度のご案内



「えなが好き」「ふるさとえなを応援したい」と考えてくださる皆さま、
「ふるさとえな応援寄付金」を通じて恵那を応援してください。

下限額) を超える部分を所得税と合わせて一定の限度額まで居住地の個人住民税から控除できる制度です。

ここで言う“ふるさと”とは市民はもとより、応援したい地域であれば出身地でなくても寄付をすることができます。

恵那市では頂いた寄付金を「恵那市市民のまちづくり基金」に積み立て、寄付していただいた方一人ひとりの希望をまちづくりに生かしていこうと考えています。またこの制度の周知を通じて、より多くの人に恵那市を知ってもらい、交流人口を増やすとともに、まちづくりや観光分野の施策の充実を図ることも目的としています。

寄付する際には、様々な応援メニューの中から「坂折棚田を応援」を選択していただきます。寄付金は原則として、その応援メニューに関連したまちづくり団体やNPO等への補助金として活用させていただきます。申し出用紙はお茶番処、振興事務所にもありますが、制度等詳細については市役所企画課（電話 0573-26-2111 内線 330, 331, 332）にお尋ねください。

お茶番処本格的始動

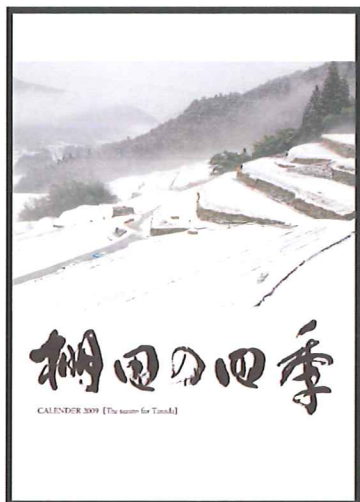
5月から地元坂折集落の保存会員が交代でお茶番処での坂折棚田を訪ねて頂く皆様にお茶のサービスをしたり、棚田の案内、地域で獲れた野菜や「布ゾウリ」などの販売をして、大変好評を得ています。

お茶番処に立ち寄り景色の良さや、世間話をされたりして、中山間地域と都市との交流に一役かっています。

会員の皆様も是非立ち寄っていただき、お茶を飲みながら、坂折棚田の美しさを味わってください。



***** 坂折棚田のお知らせ *****



平成21年カレンダー「坂折棚田の四季」と特製年賀状「棚田の朝(仮称)」を年賀状の予約を開始しました

昨年は坂折棚田フォトコンテストの最優秀を中心に1枚のカレンダーを作成、会員の皆様や多くの方々に利用していただき大変好評でした。

今年もフォトコンテストの入選作品から選定した写真を基に、カレンダーと年賀状を作成します。カレンダーはA3版7枚綴で

やや小さめなサイズで四季を通じた棚田の美しい風景と安らぎの心が伝わってきます。年賀状も新春にふさわしい棚田の朝の風景を取り入れたはがきになっています。価格はカレンダー1部500円、年賀状1枚67円です。多くの方々のご利用お待ちしております。

【申し込み・お問い合わせ】

〒509-8231 岐阜県恵那市中野方町 1802-1

恵那市坂折棚田保存会事務局（中野方コミュニティセンター内） TEL0573-23-2111



あとかき

今年もサミットに参加してきました。1ページの写真にあるようにおそろいのはっぴを着て。この藍色のはっぴはとても目立つようで、マスコミから取材を受けたり、サミット会場でも坂折棚田ここにありっ感じで、全国の棚田関係者へのPRに一役かって帰ってきました。

恵那市坂折棚田保存会 事務局（中野方コミュニティセンター内） 23-2111